

第 152 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：平成 30 年 1 月 29 日（月） 13：30～15：45

場 所：浜田市役所北分庁舎 2 階会議室

出席者：石本教育長 藤本委員 宇津委員 金本委員 花田委員

事務局 佐々木部長 河上課長 村木室長 市原課長

岡田室長 山根課長 島田館長（代理：中谷係長） 長見所長

外浦課長（代理：山本係長） 村瀧室長

原田分室長 佐々尾分室長（欠席） 森下分室長 吉野分室長

書記：湯浅係長 皆田主任主事

議事

1 教育長報告

2 議題

(1) 平成 30 年度教育方針について（資料 1）

(2) 教育長の職務に専念する義務の免除の承認について（資料 2）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

1 教育長報告

石本教育長

教育委員会がこちらへ引っ越して初めての定例会となる。今まで、浜田公民館、それから講堂、中央図書館と会場をぐるぐる回っていたが、今回からはこちらが教育委員会の会議室ということであるので常にこちらで開催したいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

今年の冬は荒れて低温の日が多いという気がしている。先週出張で東京へ出掛けた。大きい通りに雪はなかったが、裏の路地に入るとまだまだ雪が残っており、気温が上がらない限りつつらの凍った状態で、あちらこちらで滑って転んでいる人を見かけた。私も歩くのに怖いという気がした。30 年ぶりくらいに東京がマイナス 4 度になったそうである。これからまだまだ寒い日が続くので、十分にご注意いただければと思う。

委員方には少しお話をさせていただいているが、17 日に金城中学校の生徒が大佐山ヘスキー教室に行った。その時に生徒の 1 人が重症を負うという様な事故が発生しており、まだ本人は病院に入院しているといった様な状況である。これについては、この会が

終わった後の懇談会の中で少し詳しくお話をしたいと思っているが、保護者からも責任はどこにあるのかといった話も出ており、その辺も整理して誠意をもって話していく必要があるのだろうと思っているところである。

それからインフルエンザであるが、各小中学校が学級閉鎖、学年閉鎖といったことが出ている。これは12月の下旬から既に始まっていたが、今日1日はどこも学級閉鎖はない。明日からは周布小学校の2年生が学級閉鎖をするといった様なことを聞いている。今日は最後まで授業をして、明日から学級閉鎖ということである。しばらくまだインフルエンザの関係では、学級閉鎖、学年閉鎖等が出てくるであろうと思っている。学校へはその都度、手洗い、うがいの励行の指導を徹底する様にと話をしている。インフルエンザも12月当初はA型ということであったが、最近はB型が多いと聞いている。

① 12月21日(木)平成29年度浜田市図書館を使った調べる学習コンクール表彰式(中央図書館・多目的ホール)

例年よりも応募数は多かったということで、去年より150件くらい多い、1,643件の応募が市内全体ではあったと聞いている。その中で8点ほど全国推薦をして全国の審査会に送った作品があるが、その中で、三階小学校5年生の柴田くんが優良賞。浜田東中学校3年生の岡田さんが奨励賞という2つの特別賞を浜田の子どもたちが受賞したということで、浜田の取組も頑張っているという気がしている。そして、浜田市教育委員会が、図書館を使った調べる学習活動賞ということでこれが毎年全国から3団体が選ばれるのだが、その内の1つに選ばれ、大変うれしい賞をいただけるという連絡があった。表彰式は2月24日に東京で開催される予定であり、澤田指導主事に出席していただくことになっている。今までの取組が評価をされるのは本当にうれしいことであるし、これからも取り組んでいこうという励みにもなる。

② 12月25日(月)ブータン王国文化庁長官 ダショー カルマ・ヴィセイ氏市長表敬(市長応接室)

ブータン王国文化庁長官、日本でいう文部科学大臣の様な方であると思うのだが、その方が浜田市にお見えになった。実は広島市でブータン展というものが開催されていたが、その最後の閉会式に出席をされて、その帰りに浜田に寄られたという

ことである。浜田については三隅町時代から和紙での交流があるということ、それから現在も新浜田市とも交流協定を結んでおり、三隅中学校との交流、それから世界こども美術館との交流といったものが今進んでいるが、実はその下のところにも出てくるが、JICA の授業の関係で1月に入って、ブータンから3人の小中学校の先生が来られて美術教育の研修をされるということがあったので、その辺のところも含めて、事前に世界こども美術館の視察であったり、それから石州和紙会館へ行かれたり、そういった視察をされて帰られた。

③ 1月3日（水）平成29年度浜田市成人式（石中央文化ホール）

教育委員方にはご参加いただいた。ありがとうございます。今年も成人の皆さんは騒ぐこともなく、真剣に参加してくれたと思っており、大変うれしく思っている。中には目立ちたい人も何人かいたが、騒ぐこともなくただ自分たちだけで楽しんでいる様子であったので、良い成人式であったと思ったところである。対象者に対し、出席者は82パーセントであったと聞いている。8割を超える出席者があるというのは、今まで1月の成人の日の前日に行っているときにはなかったことであるので、やはり1月3日に行ったことが数字に表れているのかという気がしている。ただ、4日から仕事に出なければならぬ若者たちもおり、2日に開催してはどうかという意見も中にはある様で、大田と益田は2日に行っているが、浜田は3日に変えたばかりであるのでこれについてはもう少し様子を見ながらその辺のところは検討していきたいと思う。2日開催となると準備をする側もお正月休みがなくなるのではということもあるし、少し課題があるのかなと思っている。

④ 1月14日（日）第55回浜田市駅伝競走大会（美川地区）

教育委員会チームも1チーム参加をし、それなりに頑張った。学校の先生方のチームがたくさん出ておられ、大会を盛り上げるとともに、学校の先生方のチームが学校運営の上でチームという言葉を使うが、駅伝を通じての職員間の親睦を図ったり、交流であったり、意思統一であったり、そういうものができる、そういった姿を見ることができるのはすばらしいと思った。男子は職域の部ということで長浜小学校、周布小学校、原井小学校、雲雀丘小学校の4校が出ていた。一般女子の部には石見小学校と長浜小学校が出ており、石見小学校は全体のタイ

ムが女子の部では3位であった。若い先生方を中心に頑張っておられ、校長先生も大変に喜んでおられ、3位の賞状が校長室に飾ってあった。

それから、長浜小学校の小川校長先生、雲雀丘小学校の林校長先生はこの3月でご定年になるが、この2人も参加し走っておられた。心配もしたが完走しておられた。

⑤ 1月15日(月) JICA事業『ブータン王国における美術教育支援事業』関係者市長表敬(庁議室)

先ほども少しお話をしたが、JICA国際協力機構の事業ということで来日された4名の方が市長表敬に来られた。15日に来られたが、授業の実施期間としては、1月13日から1月27日ということで、これは、今年度が初年度であるが3ヵ年継続の事業ということで、30年1月、31年1月、32年1月と今後も引き続き実施をされる予定となっている。

この事業は「民間の草の根事業」という位置づけで、受け入れ先は民間の団体でなくてはならないということがあり、竹中理事長の公益財団法人浜田市教育文化振興事業団が引き受け団体ということで3ヵ年される。経費的なものについてはJICAが全て負担するという事業ではあるが、ブータンでは元々小中学校で、日本で言う図工や美術を教科として教えることはなかったそうである。世界的に他の国を見たときに、やはり、小中学校に美術教育というのがあるので、ブータンでも美術教育を取り入れなくてはいけないということで、ここ数年そういった取組が進められている様であるが、ブータンの全ての小中学校で美術が取り入れられているということではないそうである。まだやっているところとやっていないところがあるという様なお話をされていた。

来られたのはブータン王国王立の教育委員会の美術担当の役人の方と、それから、そこに書いてある3つの小中学校の美術担当の教員の方3名。教育委員会の方は男性の方で、美術教員の方は2人が女性で1人が男性であった。そういった方が来られ、2週間あまり世界子ども美術館を中心に色々な研修をされた。市内の小中学校の美術、図工の授業も見学に行かれたり、山口大学の教育学部にも行かれたりして、美術教育の考え方についても勉強をされて帰られたということである。

⑥ 1月19日（金）教育委員研修「コミュニティ・スクール」について（長門市）

私は急遽欠席させていただいたが、教育委員方の研修ということで長門市の油谷小学校へ出向いていただき、コミュニティ・スクールを中心とした研修をしていただいたところである。私も後から写真や資料を見せていただいたが、小学校の施設は全国的にも少ないくらいのすばらしい建物である様思ったが、委員方はその様なことを感じられたか。

藤本委員

写真の隅に中学校が映っていたが、浜田市でいう第四中学校の様な感じで、木造であった。

石本教育長

全ての学校の施設が整っているわけではないということか。一番きれいな学校に案内してくれたということかもしれない。

金本委員

近くに子育て支援センターと児童クラブが一緒になった様な建物があったが、そこもきれいな感じであった。遊園地の様であった。

石本教育長

またゆっくりと視察の状況等お聞かせいただければと思っている。

⑦ 1月20日（土）第21回浜田こどもアンデパンダン展オープニングセレモニー（世界こども美術館）

世界こども美術館の開館以来、毎年行っている展覧会である。

⑧ 1月22日（月）バイキング給食・試食（石見小）

以前、周布小学校でもバイキング給食に参加させていただいたことがあり、今回は2回目であった。最初のときは取り方が分からなかったが、今回は子どもたちと同じ様に取り、なおかつカロリー計算もして食べることができた。

⑨ 1月24日（水）第10回B&G全国サミット（東京都）

先ほど東京に出張したと話したが、B&Gの全国サミットがあり、市長とともに参加した。時間があつたので、橋本明治先生の息子さんである橋本弘安先生、今は女子美術大学の副学長になっておられるが、自宅にお伺いして色々とお話をさせていただいた。しばらく橋本明治先生の展覧会も浜田でやっていないので、やはり浜田の名誉市民でもあるし文化勲章をもらわれた先生でもあるので、5年に1回は難しいかもしれないが、10年に1回程度は浜田の偉大な先輩として展覧会を開催するというのは、大事なことであると感じたところである。

⑩ 1月26日（金）算数授業改善推進校・授業紹介（周布小）

これも4年生と1年生2つの学級で授業公開する予定にしていたが、1年生のクラスがインフルエンザで学級閉鎖になったので、結果的には4年生の学級だけで授業をしたところである。子どもたちは活発に意見を言ったり、ペアで色々と相談したりだとかそういった様にお互いに考えながら授業を進めるという点、それから自分の意見をきちんと発表するといった点では中々良い授業であったと思う。

周布小学校が今、県内に8校ある算数の授業改善校に選ばれており、浜田管内では周布小学校と江津の津宮小学校の2校が選ばれている。あとは東部と隠岐の学校である。こういった研究指定校の公開は年に3回される。3年指定があり、今年が2年目であるのもう1年ある。また教育委員方にもどこかでお出掛けいただく様なことがあると思うのでよろしくお願ひしたい。

⑪ 1月27日（土）第6回親守詩島根県大会表彰式（市福祉センター）

これはTOSS（教育技術法則化運動）という教員の研究団体があるのだが、そこが主催をして行われる大会である。島根県大会ということであるが全国大会ももちろんあり、全国各地で開催されている大会である。短歌であるが、子どもが上の句の5・7・5を詠んで、それを受けて親御さんが下の7・7を詠むということで親子の思いが繋がるという作品がたくさんあり、作品を読むと、ほのぼのとした親子の絆が感じられる、なかなか面白い取組であると思う大会である。第1回目から第6回目までずっと浜田が会場である。複数の先生方が全県的におられると思うが、浜田近辺の先生が中心となって進められている大会であると思う。

⑫ 1月28日（日）第28回中学校柔道大会三隅大会（三隅中体育館）

第60回島根県書初め展特別賞表彰式（サンマリン浜田）

旧三隅町時代から三隅町の子どもたちの柔道のレベルを上げるという様なこと、それから県外からもたくさんの方が来られるので、そういったことで地域の活性化にも繋げるということ。そういった2つの目的のもと開催されている大会であり、28回目になるが現在も三隅中学校で開催されている。

昨日は 377 名の選手が参加した。男女合わせて 66 チームで、内訳が県内が 30 チーム、広島が 12 チーム、山口が 9 チーム、福岡が 4 チーム。あとは岡山とか大分、鳥取からも来ているし、何と言っても韓国の釜山から毎年選手がやってくる。というのが、夏休みに島根県の中学校の選抜チームが釜山に合同合宿に行く。それのお返しと言うか、島根に来ようということに来ていただく。昨日は 26 名の韓国の中学生が来ておられた。釜山市の安楽中学校という非常に柔道の盛んな中学校であるそうだが、そこの生徒 26 名に対して、保護者、指導者が 16 人来ておられたのでかなりの大人数で来ておられた。毎年瀬戸ヶ島の青海荘さんにお世話になっており、そこに泊まっておられたが、今年は都合が悪いということで、ライディングパークへ泊まられた様である。我が家の前も韓国チームと書かれたバスが通っていた。そこへ泊まれるのはもちろん初めてであると思う。韓国から来られるようになってもう 6、7 年目になると思うが、今後も是非この大会には参加したいと言っておられた。と言うのも、いつも優勝する福岡の大蔵中学校というチームがあるのだが、これが全国ベスト 8 に入るくらいの強いチームで、そことお手合わせをするのが韓国チームの狙いの様である。大会そのものは試合であるのですぐに終わってしまうが、前日の土曜日に朝から晩まで練習会があるので、そのときに本当の練習ができるということで、それを楽しみに皆来られている様である。であるので、金曜日の夕方、または土曜日の朝早くこちらに県外のチームは来て、土曜日は練習、日曜日は試合といった様な大会である。地域の皆様挙げてお手伝いいただいてこの大会は盛り上がっている。三隅町時代から教育長が大会の会長であるそうで、山田前教育長がずっと会長をやっておられ、私も教育長になってから大会の会長であるということで参加をさせていただいている。ちょうど書初め展と重なるので行ったり来たりであった。

その後、委員方にもご参加いただいた書初め展の表彰式であるが、第 60 回ということで昨日表彰式があったところである。60 回ということで、森須園先生が、「第 1 回の当初から係わっているのは自分と江津の山藤耕子先生 2 人だけになった」という様な話をされた。60 年間ずっとこの大会を支えて来られたということで、色々のご苦勞があったのだろうと話したところ

である。

1 か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

藤本委員

質問ではないが、私が知らないもので聞いてみたいことがある。先ほどブータン王国との繋がりという話があったが、そもそもブータン王国はどこにあり、どの様にして行くのか。

石本教育長

山本係長お願いします。

山本係長

インドの東北にある国である。エベレストの麓である。

藤本委員

どこから行くのか。

山本係長

昨日の朝、広島から成田、それからバンコクへ行きそこで1晩明かし、今日の午前中の便でブータンに帰るということである。

石本教育長

来られるときもタイ経由であったか。

山本係長

はい。逆のルートであった。

藤本委員

そういったところにあるのか。直行便はないのか。

山本係長

ない。

石本教育長

吉野分室長は行かれたことはないのか。

吉野分室長

ない。

石本教育長

三隅はブータンへずいぶん行っておられる。

吉野分室長

はい。授業参観にも行かれています。

藤本委員

どこにあるかくらいは知っておかなければと思った。

石本教育長

色々と宗教的なこともあり、食べ物が大変ではないかという話があったが、大した心配をすることもなく、ホテル松尾さんに泊まっておられたが、その奥様も「あんまり気にせず何でも食べていただいた」という様な話をしておられた。来年以降もホテル松尾さんにお世話になることと思う。

藤本委員

承知した。

宇津委員

成人式の参加率が 82 パーセントということで大変有難いと思うのであるが、広報はまだの表紙を飾った写真を見ても圧巻であった。実際には人数にして何人くらいであったのか。

佐々木部長

439 人であった。

石本教育長

後ほど生涯学習課から資料もあるので詳しい報告があると思う。広報の表紙の写真は皆がリラックスしている様で良かった。皆楽しそうであった。

宇津委員

男の子より女の子のパフォーマンスが大きかったように思う。

石本教育長
藤本委員

市長が大変喜んでおられた。

1月26日に算数授業改善推進校の授業公開が、1年生と4年生で予定されていたが1年生はインフルエンザのため4年生のみという話であったが、私は以前、テレビ番組で法政大学の尾木直樹先生の話を知っていたときに、「算数というのは小学校5年生からしっかりやっていないとついていけない」ということであった。それなら小学校5年生まではどうでもいいという様なことは言われていなかったが、その話からすると、今回1年生と4年生のクラスを選ばれたのには何か理由があるのだろうか。5年生でも良かったのではないか。

石本教育長
岡田室長

その辺について学力向上推進室長、何かあるか。

推進教員というものを作ってやっているのだが、その推進教員というのが今年で2年目であるが、推進教員の授業ばかりを見せてもらうという形であったのだが、今年度は他の教職員に広げていこうということになり、推進教員でない方を選んでおられるので校内的な事情ではないかと思う。推進教員の先生は担任が2年生であったのでそれ以外の学年でということであった。

藤本委員

偶然テレビでその様な番組を見て、記憶に残っていたもので、何か意味があるのかと思った。

石本教育長
委員方

その他は良いか。

特になし。

2 議題

(1) 平成30年度教育方針について(資料1)

石本教育長

直前になってしまい申し訳なかったが、教育委員方には事前に教育委員会事務局としての案を送らせていただいた。何か特に確認してもらいたいというところはあるか。

湯浅係長

特にはない。

石本教育長

お手元に教育方針の構成というものが1枚ある。これに基づいてそれぞれの肉付けがしてあると思うが、中で相談して、例年総バランス的な教育方針ということで、全ての色々な項目を少しずつ説明しているが、今年はそうではなく、新規事業であったり、去年とやり方を少し変えたところを中心に記述をしようという話をしてきたのだが、やはり作ってみると全くないのもそれはそれで教育方針としてまずいのかなということで、この1ペーパーにある図の様に項目を絞りながらも全体に広がるような形で出し

ていただいたところである。色々お気付きの点があると思う。少しずつ区切ってご意見を聞かせていただだけきたい。

最初の1ページから3ページの下、学校教育のところまで。ここがいわゆる総括的なことが書いてある部分である。ここの1から3ページのところでお気付きの点があればご指摘願う。

花田委員

1ページ目の真ん中の段落、下のところ「なかでも、高等学校は」の部分について。ここに書かれていることは、具体的に何のことを言っておられるのかが分からない。私自身が理解していないだけかもしれないが教えていただきたい。

石本教育長

実は高校の魅力化というのは、離島とか中山間地にある高校の生徒が減って行って高校がなくなれば地域そのものが衰退するという様な思いの中から、例えば隠岐の島前高校であるとか島根中央高校であるとか県外からの生徒を多く募集して学校を存続させる様な動きをしておられる。そのために実は、町から高校に職員を1人派遣して町の教育の取組と、高校の取組を連携する様なパイプ役の人を配置し、それに対して県が財政的な支援をするという事業がある。それが今まで、浜田は中山間地とは外れているので該当ではなかったが、去年から「松江、出雲を除く全地域が対象になる」ということがあり、浜田高校の校長先生と明日会うのだが、高校側からも「是非この事業に取り組んでほしい」ということがあり、まず、高校の魅力化、高校と地域のつながりの辺りからスタートし、最終的には幼稚園、保育園のところから高校までの18年間全体の教育の流れというものを、義務教育とそうでない高校教育をつないでいこうという、そういったものを作る作業をしないといけないが、まだ何にもやっていない。であるが、そういったものに取り組んでいきたいということがそこに書いてあり、他ではやっているのだが、浜田では今までやっていなかったもので、どの様に取り組んでいったらどの様な成果があるか、それも全く見えないところではあるが、今後、高校との話し合いを続けながら、高校の魅力化というものに取り組んで、それが1、2年である程度形が見えてきたら、そのあとは先ほど言った様に、0歳から18歳までのところの教育の連携、その辺を目指す取組をしたいということで、今まで、教育委員方にも全くお話ししていなかったところであるので、確かに委員方には分からなかったと思う。これから取組をしたいということで、実は県の色々な研修へ職員に行ってもらっているが、そういったもので職員のノウハウを使い

ながら、これから高校と協力していきたいと思う。高校側はやってほしいという思いが強い。先ほど言った様に浜田が最初から職員を派遣して、連携をとる様なことができるかどうか。職員を派遣しなくても、常に行き来をしていけばそれはできると思うので、そこまでやるかどうかは別として、ただ今までは義務教育と高校の教育は違うという様なところがあったが、そういったことではなく、高校も一緒になって浜田市の教育の中の1つとして、ふるさと教育なりキャリア教育と一緒にやっていこうという考えの取組である。

また、色々な資料を新年度になったら委員方にも提供しながらご意見をいただいきたい。よろしくお願ひしたいと思う。

この文章を読んだときに市民の皆様は分からないかもしれない。

花田委員

読めば、何か具体的なことをこの様にしようというのであろうなど分かるが、何にも知らないと思った。これに関して質問がこういった感じできっと出るので、それに対してはその様に答えられるというのが今分かった。

石本教育長
村木室長
花田委員
石本教育長

今の説明で良いか。

はい。ありがとうございます。

浜田高校だけであるのか。

全ての高校である。ろう学校、養護学校も含めてである。水産高校であれば今でも長浜小学校とは海洋教育ということで今でもかなり交流があるのでそういったところも出てくるであろうし、ろう学校、養護学校にしても、国府小学校とか浜田東中学校と色々交流がある。地元だけではない他の学校もあるが、その辺のところをこれから広げてみたい。

花田委員
石本教育長

商業高校に関しても、他所から来られたりしている。

商業高校も今までは県外生の受け入れを考えておられなかったが、今東京から1人、神楽がしたいということで商業高校に来ている子がいる。そういった子は大々的にPRしたらもっと増えるのではないか。その辺のつながりがあるし、今からプログラミング教育というものを進めていかなければならないが、それも今、商業高校の生徒が長浜小学校へ行き、小学校に指導者として教えている。先生が教えるのも良いが、お兄ちゃん、お姉ちゃんが教えると子どもたちがとても興味を持って食いついてくる様である。その様な取組もあるので、商業高校とのつながりはそういったこ

とも考えられる。その辺のところでも今までもやっていることを少しまとめて、体系的にするということであると思う。

花田委員 それはやはり職員が片手間にされたのでは絶対にならないと思う。必ずそれをやるという方が1人必要である。

石本教育長 実はその様なノウハウを持ったプロデューサーを雇うということも県の事業のメインに入っていて、それは申請すれば県が全額支援してくれる。ただ、どういう良い人がいるという情報がない。中々その様なことがバリバリできる方がおられない。

村木室長 すみません、全額支援ではなく2分の1であった。初めの高校に出る分は全額であるが、コーディネーターの人件費は2分の1である。

石本教育長 県もその様な財政支援をしながら全ての市町村でやらせようとしている。松江と出雲は除外されているが。

花田委員 わかりました。

宇津委員 2ページ丁度真ん中の「教育の原点は」から始まる文章の「取り組むこととされています」という箇所が気になった。「人権の尊重の精神をすべての教育の基底に据えて」というのは、第1次の総合振興計画に盛られた文言であり、そのことはとても大事なことであるので、それを「こととされています」というのは少し弱いのではと思う。教育長、教育委員会のスタンスとすればその部分は非常に重要と考えているという表現の方がより良いのではという気がする。

石本教育長 「されています」では何となく他人事の様である。

宇津委員 その様な感じがする。

石本教育長 「基底に据えて取り組むこととあります」だとかその様に言い切った方が良いのかもしれない。今言われた様に「基底に据えて取り組むこととされています」という様な表現に変更する様に検討する。

委員方 他にあるか。

石本教育長 特になし。

委員方 それではまたあれば後ほどお願いする。3ページの下段から、7ページ4行目までが学校教育となっている。このところで何かお気付きの点があればご指摘願う。

花田委員 4ページの『主体的・対話的で深い学び』への転換が求められております」というのが頭にきていて、それを受けて、島根県の概要があり、浜田市では、単純にこれを要約すると「主体的・対

- 話的で深い学びを推進するにあたって調べ学習と図書館がある」の様に読める。そこに持っていくための文章の運びであるのかと思った。単に調べ学習と、学校図書館活用で主体的・対話的な学習への深まりができるのと取ると、私は違うと思う。浅いのではないか。調べる学習コンクールとか、学校図書館活用教育が子どもたちの言語能力や読書が主体的・対話的な学習への深まりにも寄与しているとは思いますが、それがすべてである様な感じを受けたので、そこはそうであるかなと私は思った。
- 石本教育長 この流れでいくと今言われた様に、調べる学習コンクールや学校図書館活用学習のことがイコールと主体的・対話的学習の深まりにもつながるといふ様な、短絡的というか、ストレートに詰め込んでいる。それ以外で主体的・対話的な学習の深まりを求める活動があればここに入れたら良いのでは。
- 岡田室長 協調学習はやっているが、主体的・対話的な深い学びというのは協調学習がやってきたところは、アクティブ・ラーニングに入っていると思う。ただ、形式的になりすぎてはいけないという様な話が出てきて、アクティブ・ラーニングはアクティブ・ラーニングとばかり言われるようになったので、主体的・対話的な深い学びという言葉の方がいつの間にか大きくなっている。
- 石本教育長 花田委員が言われることを考えてみると、調べる学習コンクールとか図書館活用教育だけではなくて、先生方が授業の中で、例えばグループ学習であったり、そういった皆で考えさせる様な授業をしておられると、そういう様なものが、この深まりにつながっていくという。その辺であるか。
- 金本委員 総合的なことである。
- 花田委員 これを書いてはいけないとは思わない。
- 石本教育長 主体的・対話的な学習の一番困っているというのは、授業のあり方を授業改善の先生方がされて取組んでおられたことがおそらくこういうことにつながる。そういったことをここへプラスしてはどうか。
- 岡田室長 皆入れなければならなくなる。全部がつながってくる。算数、数学の改善。それから協調学習。
- 石本教育長 授業の取組として、授業の進め方として先生方が対話的な場面を設定して、といった様なことである。そうすると流れが良いのでは。
- 花田委員 それで、「これもやっている。これでも深まりも見られる。」と

石本教育長
花田委員

いう様に補助的になっているのであれば良いと思う。

検討する。

根本的な話になるが、主体的・対話的というところでいうと、それこそ授業での方法的に、子ども同士でやり取りをさせるとか、投げかけとか、最初のテーマの与え方であったりというのはそういうところの工夫というのは先生方が研究したり推進されたりしているところであるが、基本的なところでコミュニケーションの学習というか、そこも子どもが身につけなければ成り立たないという私の考えがあるのだが、今さらここで言われてもということもあるかもしれない。コミュニケーションの力を伸ばすということに関しては、しようということはないのか。今、第二中学校が力を入れているのをご存知か。

石本教育長
花田委員

広島先生を呼ばれて年に4回くらいやっている。

職員同士のコミュニケーション能力を高めるためにもそれをやっておられ、職員が子どものモデルになるということをやっておられるのだが、確実に効果を上げておられる。子どもは子ども同士の相手意識が高まったりとか、方法を学んでいるので、理解が深まるという方法も同時に習っていて、授業で先生方がその様な学びの形として深い学びの形として入れられたら、全く効果が違ってくると思う。ここ数年で第二中学校は変わるのではと思っている。その辺りはどうか。せっかく自力でモデル的にやっておられるのだが。

石本教育長

以前浜田にも来ていただいた先生であるが、どういう名前であったか。

花田委員

親業訓練の三上かおり先生である。そちらの力を伸ばす取組はないのかと。

石本教育長

確かに浜田の子どもに不足している部分にコミュニケーション能力が当然ある訳で、そのコミュニケーション能力をつけるためにアクティブ・ラーニングをしなければならないであるとか、そういった授業の持ち方、対応的なことをしなければならないという方向性を出された訳であるので、ここの中でコミュニケーション能力を育てるといふ部分はないので、ではその辺、具体的に何を取組んでいるかと言われたら、それは授業改善で子どもたちが話し合いを持てる様な場面を作ると。アクティブ・ラーニングを進めるための研修会も県の教育センターの中の研修に当然あると思う。子どもにそういったことをさせるためにも先生にも少し勉

強をしてもらわなければならないということもあるので、書けるとすればそのくらいのところであると思う。子どもたちがコミュニケーション能力を高めるための授業体制、授業の取組を先生方に勉強してもらうために研修会に参加してもらうかどうか。

岡田室長

主体的・対話的な深い学びに関係していて1番お金をかけているとすれば、協調学習だと思う。新しい学びプロジェクト研修会も年に1回は必ずやっているし、各校に呼びかけている。それをやりましょうという先生方も増えてはきている。されるのであれば、子どもたちが主体的で対話的になるという実感は持ってもらえると思うが、全ての方がやっておられるわけではない。

石本教育長

全ての教科で協調学習をやろうという思いはあるかもしれないが実際は無理である。例えば算数であれば、毎回ではなく月に1回とか1学期に1、2回その協調学習の手法で授業をする。それ以外は今までどおりの普通の授業をする。その程度ではないだろうか。毎時間協調学習を取り入れてやるのは無理である。協調学習に取り組んでいるし、しなければならないことであるのだが、どの様に表現をしてどの様な効果があるかと言われたときに説明しきれない。勉強に行かなければならない。

今花田委員からご指摘があったコミュニケーション能力をつけるために取り組んでいるという姿勢をここに入れていこうと思うので、それも事務局と相談させていただきたい。

宇津委員

5ページの下から3行目「学校や保護者と連携して個に応じた支援を」という文章に「きめ細やかな」という文言が入ると、より1人ひとりを丁寧に扱う感じがするのでは。

石本教育長

ありがとうございます。去年もそういったご指摘をいただいた様な気がする。

事務局で案を作るときに1番悩んだのは6ページの上から2段目のところに全国中学校体育大会体操競技のことが書いてあるが、「また応援に来られる皆さんに好感を持っていただける大会になるよう」という表現があるが、この「好感」という表現についてである。喜んでもらえる様なとか満足してもらえる様なとか、色々あり今結果的に「好感」になっているが、何か良い表現はないか。良い大会であったと言ってもらえる様なという表現に苦慮していた。

藤本委員

ここは確かに変えた方が良い。この表現ではまずいと思う。

宇津委員

「感動していただけるような」はどうか。

石本教育長 「持っていただけるような」と書いてあるから難しかったのか。他には。

宇津委員 その後に、浜田はインターハイを経験している。大成功に終わっているその経験を活かしてという文言がどこかに入ると、ああそうだな、あのときは感動したなともう 1 回あの体操大会を中学校でやるのかと受け取られるのではと思う。

石本教育長 宇津委員は体操連盟で色々内情を知っておられたので。インターハイのときに宿舎の問題であるとか、輸送の問題であるとかその辺のところは大変であった。山根課長が一番良く知っておられるが。ただ、実はインターハイのときには教育委員会の中にも事務局があつて、全てのことを教育委員会が把握をしながら準備することができた。中学校の場合は事務局が教育委員会ではなくて第一中学校にあるので、職員も福田先生を市の職員として派遣しているが、中々こちらとのつながりがあまりなく、今どこまで進んでいるのかという実態を教育委員会もつかみにくいところである。その辺のところでも今どの辺のところまで進んでいるのかというところを常に心配はしている。その辺がインターハイとは違う。インターハイのときは教育委員会が「やります」と言えたが、今回は中体連がされるのを支援するという形のことしか言えないのかと。

藤本委員 「満足をしていただけるような」という表現もあるかもしれない。

石本教育長 それも候補にあつた。「感動していただける」「満足していただける」など。とりあえず「好感」をやめて、「感動して」か「満足して」という様な表現に変更しようと思う。それと宇津委員からお話があつた「インターハイの経験を活かす」というところも確かにあるので、最後の「中体連や体操連盟など関係機関と連携して」という前のところに「インターハイの経験を活かして」という言葉もここへ付け加えてみる。

花田委員 6 ページの 1 行目、前のページの道徳のところからつながってきていて、「研修を進めてまいりました」と終わった感じになっている。

石本教育長 「まいりました」ではない、「まいります」である。確かに今までもやってきているが、これからも引き続き研修を続けていくということをここでは言いたいわけであるので。その表現で、島根県教育委員会でフルネームで書いてあつて、その 5 ページの上

は県の算数授業改善推進校という県だけしかないところで、簡単に書いてあるところと、フルネームで書いてあるところとあるが、その辺は統一する必要があるのか。

湯浅係長 統一した方がよろしいかと思う。

石本教育長 全部島根県教育委員会と変えるのも大変である。施政方針であるので県教委など簡略した言い方ではいけないであろうか。

花田委員 国とか県とかではどうか。

石本教育長 県と書いて県教委と書くということは、県知事局でなく教育委員会であると明確にしておいた方が良くと思うので検討する。

とりあえずここまでとする。

花田委員 7から8ページが社会教育である。ご意見があればお願いする。7ページの社会教育に入った3段落目の「公民館の活動につきましては」のところであるが、文章にまとまりがない感じがした。ここの部分と、その下にもあるが、「地域の方々」とある。急に丁寧な感じがする。「地域住民」ではいけないのか。その前のところに地域の人を指す部分が「地域住民」であった。その「公民館の活動につきましては」のあとのところの文章を、「地域住民が主体的に地域課題の解決に向けた取組を進める拠点としての機能の強化を図るとともに」ではいかがか。少し考えてみた。

石本教育長 「地域住民が主体的に地域課題の解決に取り組むための拠点として」でも良いか。

花田委員 シンプルな方が良いかと。

石本教育長 今、花田委員からその様な表現の提案があった。確かにその方がすっきりするかもしれない。これは私が読んで、皆さんは聞いておられるだけであるので、分かりやすい言葉であまり修飾も付けずに簡単に言った方が分かりやすいと思う。こてこてした文章は本当はいけない。市長の市政方針も簡単な言葉で誰が聞いても分かるようにしなければならぬと必ず言われる。くどい言い方だと、確かに聞いていても何が言いたかったのかとなるかもしれない。それではその辺のところの文言の整理を。先ほど花田委員が言われたことを書き取ったので、直してみる。

花田委員 その「地域の方々」がこのページの下から4行目にもある。でもこれを急に「地域住民」にすると怖い感じがする。「方々」にされる気持ちも分かる。「学校における地域住民の教育活動支援」でも別に悪くはない。

石本教育長 おそらくこの表現は共育のパンフレットにあった言葉をそのまま

ま書いていると思う。「地域の皆さん」くらいが柔らかいかも
 ない。確かに「地域住民」と書いてあると束になってかかってき
 そうな感じがする。「地域の皆さん」に変えてみる。

花田委員 昨日時間があり読み込んでしまったもので申し訳ない。7 ページ
 の最後の行について教えていただきたい。「家庭教育支援におきま
 しては、就学前の子ども」と書いてあるが、これは、就学前に絶
 対に限ってしまうことであるのか。小学生の親は対象ではないの
 か。

山根課長 一応この度はオリジナルのプログラムは就学前を対象にしてい
 て、小学校以降は県の親学になるのだが、今回のこのオリジナル
 のものがどの様な結果になるかを見て、また、本来は「各期にお
 いて」という様に考えていたが、それは県には中々無理であるの
 で。当面、就学前に絞って取組むという意味合いが入っている。

花田委員 この30年度は就学前ということで良いか。
 山根課長 そうである。
 花田委員 わかりました。
 石本教育長 そのあとスポーツ、図書館、青少年健全育成のことが続く。
 金本委員 図書館のところで「第2次浜田市子ども読書活動推進計画」は、
 対象は確か乳幼児期からであったか。

石本教育長 乳幼児期から18歳、高校生まで入れてある。
 金本委員 であるならば、最後の2行のところに「青少年の時期から良い
 本に触れる機会をもって」というのは遅いのでは。

石本教育長 幼児期でも遅い。乳幼児期からである。ブックスタートは赤ち
 ゃんのときである。それならば「乳幼児期から」となる。自分が
 読まなくても親から読んでもらうということも触れるということ
 になる。ではここは「乳幼児期」にするか。「乳幼期」か。

花田委員 「乳幼児期」ではないか。
 石本教育長 では「青少年」を「乳幼児期」に変更する。
 それでは社会教育のところを終わって、9、10ページに文化財の
 こと、それから文化振興のこと、芸術文化のことが書いてある。
 芸術文化のところは具体的なことが色々と書いてある。
 私が聞くのはおかしいが、第50回浜田市美術展記念事業は特別
 な予算か、特別な事業があるのか。

山本係長 はい。1,000千円別に予算がとってある。
 石本教育長 「50」と下の「13」のところの前後のスペースが違うが、これ
 は何かルールがあるのか。

山本係長	直接スペースを入れたのではないが。
石本教育長	これは湯浅係長が直しているのか。
湯浅係長	はい。今標準でやっている。
石本教育長	下の「13」の書き方が正しいのでは。
湯浅係長	おそらくそうである。点があるので詰っているのではと思うが、調整する。
石本教育長	点があるから詰まるのか。「16」も詰っている。ということは、これは1字増やせばずれるのか。
湯浅係長	はい。ずれると思うので調整させてもらう。
石本教育長	芸術文化、文化財のところは良いか。
藤本委員	「浜田開府 400 年」という記念すべき年に当たる。この記念すべき年というのは、400 年の次はいつか。
石本教育長	450 年くらいではないだろうか。
金本委員	350 年があったか。
藤本委員	たまに聞かれることがあるので、少しくらい知識を持っておこうかと思ったのだが。
石本教育長	開府何年とかいうものを、昔はおそらくやっていなかったと思う。何年か前から開府 400 年とか、萩が開府 400 年をやったのが平成 22 年である。9 年くらい浜田よりも早い。それだけ早く城ができたということであると思うが。松江も何年か前に開府 400 年というものをやっている。多分どこかがやれば皆それを真似してやる。であるので、どこかが 350 年をやれば、当然先にやったところがやることになる。
藤本委員	確かに 400 年と言えば区切りが良い。次はいつかということになると。城下町ではないのであるから。いつも言われるが、他に何かあるかと言われても、それはないという話になる。城下町を今さら作るわけにもいかない。
石本教育長	津和野も 400 年である。
藤本委員	あそこは城下町らしき通りがある。
石本教育長	間違いなく城下町である。
藤本委員	萩にもある。400 年の次はいつなのかと聞かれたことがあるので、分かっておかなければならない。
石本教育長	それではざっと見ていただいた。この中でも記載のないところでこういったことについて入れておくべきではという様なところもあろうかと思う。その辺で何かお気付きの点があるか。
	おそらく何か抜けていて、あとから指摘を受けることがあるか

も知れないが、中々全部を載せるわけにもいかない。事務局の勝手な思いで今組んでいる。まだ市長に見てもらっていないので教育委員方に色々と意見を出してもらった後に市長のところへ持っていくのだが、少し変更になるところもあると思う。

話はそれるが、中高一貫のことで、今県が高校のあり方検討会というのをやっておられて、とりまとめの案ができています。それを見たら、私たちは中高一貫については他の県でも色々とやっておられて、当然今から検討していきますくらいの文言があると思ったら、島根県にはそぐわないのではという様なことが書いてあったので違和感を覚えた。

宇津委員 その辺りの県の教育長の思いが前面に出ている。後ろ向きなのが検討委員会の委員の中に感じられるのではないかと。

石本教育長 直接はあの会議に教育長は出られない。担当の者が教育長の思いを県の教育委員会の思いとして代弁しているのかもしれないが。

藤本委員 やはり市長も我々もそうであるが、一生懸命になっているが、それだけでは力が弱い。少なくとも浜田選出の県議さん辺りが強い要望を出していかないと中々動かないと思う。要望も「頼みます」みたいなことなら誰でも言う言葉であるので、そうでなく、もっと強い要望がないと中々動かないのではと思う。

石本教育長 市長の施政方針の中に、中高一貫のことを入れるかどうかという検討があり、それはやめましょうということになった。しかし、市長から教育方針に入れてくれとなった場合には少し断りづらい。

藤本委員 要望しますというのは言っても良いし、要望しても良い。何度しても良い。ただ、前向きに動いてくれないことには。それを動かす力というのは、県議会議員辺りの助言が私は大きいと思う。

石本教育長 県の方のやる気がなくても市の思いとして意見を言いたいという考えである。また、総合教育会議のときに市長からこの議題が出るかもしれない。議題はまだ決まっていないのか。

湯浅係長 一応決まっている。2月6日10時からである。

石本教育長 それでは今日いただいた修正箇所については、明日までに整理をして、明日発送できれば良いが難しいか。

湯浅係長 頑張ってみる。

石本教育長 できれば、水曜日の内にはお届けできる様に頑張るので、また見ていただいて、実はまたあとの調整等もあるので、水曜に送る

委員方
石本教育長

ので、2日（金）17時までにお気付きの点があれば事務局の湯浅係長へご連絡いただければと思う。

時間がなくて申し訳ないがそれで良いか。

はい。

ではその様をお願いします。

(2) 教育長の職務に関する義務の免除の承認について（資料2）

湯浅係長

平成27年度の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正施行に伴い、いわゆる新教育長の設置に伴い規定が改正となり、新設されたものである。この一環の中で、教育長には職務に専念する義務というものがある。この免除について、任命者である市長が承認、あるいは否認を行うことが法的になっているが、浜田市においてはその権限を教育委員会に委任するという仕組みになっている。今回教育委員会の中で諮り、職務免除の承認、あるいは否認をしていただくのでよろしくお願いしたい。

中身については人間ドックの受診ということである。健康増進を図るという目的のために必要なものということで、これについては実際に規則上でも項目に入っているものである。実施日時については、平成30年2月2日（金）1日ということである。尚、資料2の次ページ以降になるが、根拠となる例規等載せているので参考としていただきたい。

石本教育長

ということで職務専念の義務があるが、それを免除していただき人間ドックに1日行かせていただきたい。

委員方

承認。

石本教育長

ありがとうございます。出てこられないかも知れないが、そのときはよろしくお願いします。

3 部長・課長等報告事項

佐々木部長

平成30年3月 定例会日程（見込み）（資料3）

2月22日から開催になり、今回代表質問等もあるので、これらの委員会を経て3月15日が最終の予定である。2月14日の議会運営委員会で正式決定と書いてあるが、この次の日2月15日が議会の一般質問の締切日となっているので、議会が始まる1週間前に質問の締切があり、22日から議会が始まるという予定になっている。

河上課長

行事等予定表（資料 4）

1箇所訂正をお願いする。今日の会場の場所であるが、「2階会議室」の「会」の文字の場所がずれているので訂正をお願いする。右から2段目が委員方へ案内をさせていただいているものということで、先ほども言われた2月6日に総合教育会議を10時から本庁3階の庁議室で予定している。あとは、2月14日次回の教育委員会定例会ということでこの会場を予定している。その他、下の段については別途資料で説明することとしている。今回少し行事が少ない様であるがこの様な形で予定しているのでまたご覧いただきたい。

石本教育長

「平成29年度 人づくり・郷づくり交流会」は委員方に案内が行くのでは。

山根課長

はい。

石本教育長

2月17日（土）平成29年度人づくり・郷づくり交流会。去年はいわみーるの体育館であった。

宇津委員

今年は県立大学のコンベンションホールである。

石本教育長

これも丸でなければいけない。
色々と行事予定があった。委員方のご指摘は後ほどお願いしたいと思う。

村木室長

浜田市教育文化振興事業団のあり方検討委員会（中間報告）（資料 5）

私ども、教育施設再編推進室の業務の1つとして浜田市教育文化振興事業団の見直しの調整がある。文化振興課を中心に生涯学習課と協議しながら、現在も進めている。本日は中間報告ということでお時間いただきたいと思う。

まず最初に事業団の職員の意識改革が必要ではないかというところから、お手元の資料の3ページをご覧いただきたい。

事業団の内部としての検討委員会を設置したところである。この委員会の中で、これからの事業団のあり方について検討してきた。メンバーは資料の5ページにあるが、いわゆる各施設の中堅職員を、それぞれの館長の推薦に基づき、あとは、行政としては担当である山本係長と私どもが入って会議をしてきた。

1ページを見ていただくと、7月20日から始まり、5回の会議をしてきた。総合振興計画のことや、派遣の先生に来ていた

だき、浜田市の社会教育の勉強、更にはモニタリングレポート、行政がどの様に見ているかということ。第3回目においては日本福祉大学の長畑先生を招いての研修。問題点の洗い出しや事業団の魅力等を出し、11月7日には防府市、周南市に先進視察に行ったところである。

めくってもらって2ページであるが、研修に関しては11月17日に「超高齢人口縮減社会における浜田市教育文化振興事業団の使命と役割」というテーマで、長畑先生にお話いただいたところである。資料でいうと、7ページをご覧いただきたい。後先して申し訳ない。6ページに丁度ワーキング会議の写真が入っている。小ぢんまりとした会議ではあるが、各施設、正直今までこの様な場はなかったということで、中々事業団は1つになりにくい部分があるが、こういった輪になり、皆さんで話をしてきた。

7ページの長畑先生のプロフィールである。偶然この先生が先進地視察に伺った周南市や防府市に関わりのある方で、実は浜田市もここ2、3年、公民館関係や、後ほど説明があると思うが、人づくり・郷づくり交流会の総合司会等もお世話になっており、山口大学のときから色々とお付き合いがある先生である。今は定年退職され日本福祉大学におられる先生である。この方の講演を受けて、実は事業団の職員はそれぞれの美術、照明、舞台とかいう専門研修は受けているが、社会教育施設としてのマネジメント研修は初めてということで、すごく勉強になったという感想を得ている。

8ページがそのときの資料である。今後事業団を見直すにあたって、「3.おわりに」とあるが、財団のビジョンとか戦略の策定、また、学校、医療・福祉、NPO等との連携や協力、情報発信の強化。この中で一番職員が感銘したのは、「財団運営は行政の負担ではなく、市民から負託された未来への投資である」というこの言葉で多くの職員が感銘を受けて、自分たちがやっていることはやはり将来への子どもや大人へ色々なところで関わっているのだという様なことで、最終的には一番下にある「浜田市の活性化住民幸福度の向上を目指して」ということで事業団の使命と役割について最終的に話をしていこうということになった。

こういった研修を受けて、2ページに戻っていただき、問題

点としては情報発信力が足りなかったり、事業に対する評価が十分でなかったり、行政との連絡や共有が足りなかったりと諸々問題点は挙がってきており、今後としてはこれをどの様に克服していくのか、更にはそれを1つの計画として中期経営計画に着手をしようという方向で、今調整をしているところである。以上本日は事業団の調整ということが私どもの任務であるが、中間報告ということで報告させていただいた。

市原課長

平成 29 年度卒業（園）式及び平成 30 年度入学（園）式日程（資料 6）

日程等について確認いただくとともに、今対応していただくところを、教育総務課で調整しているので決まりましたらご案内する。

石本教育長

これについてはまた後ほど調整がある。

岡田室長

平成 29 年度（第 4 回）浜田市図書館を使った調べる学習コンクール事業について（資料 7）

教育長の話にもあったが、そこに「2. 事業実績」として挙げている。調べる学習の応援講座等の研修会などを開いているので、学校司書や支援員についても年々経験と、知識等も増えてきて非常に充実し、1人ひとりの技量は伸びているのでは感じている。応募作品総数ということでそこに挙げているが、作品の数もであるが、作品の質も年々向上してきていると感じている。2 ページに審査結果が出ている。今年度、優良賞が 1 点、それから奨励賞もあった。浜田市の教育委員会も図書館を使った調べる学習活動賞をいただいたということで、継続していくと、それぞれの力量も高まり事業内容も深まっていくなど感じている。市のコンクールの審査結果等についても載せているのでご覧いただけたらと思う。

山根課長

平成 30 年 浜田市成人式について（資料 8）

先ほど日程の関係で話が出ているが、出席者については該当が 535 人中の 439 人。男性 235 人、女性 204 人。出席率が 82 パーセントであった。ちなみに昨年は該当者が 526 人の出席者が 411 人で出席率が 78.1 パーセントということで、少し出席者が増えている。それと併せて保護者の方も出席される方が増

えていて、今年は3階まで上がっていただくということも生じた。内容的には昨年と変わらないが、昨年、前回から実行委員会のボランティアとして県立大学生2名。これは県立大学放送部の学生さんで当日司会をしていただいた。それから医療センターの看護学生が2名。昨年はリハビリテーションカレッジにも声を掛けて1名あったが、今年は参画がなかった。

平成29年度 人づくり・郷づくり交流会（資料9）

今年については会場が県立大学の交流センターである。目的としてはそこに書いてあるが、「住民主体による地域づくり」それから「人づくり・地域づくりにおける関係機関等の連携・協働についてを考える」である。

中ほどに日程が載っているが、3つの実践発表というところで今回は雲城公民館の雲城まちづくり委員会の実践。それから、三隅公民館。三隅まちづくりの地域防災の実践。それから三階まちづくりの子ども部会。共育と地域づくりの実践ということで、3団体の発表を行う。それから「先進事例に学ぶ」ということで、これは高知県の南国市稲生ふれあい館という公民館からお越しいただき、先進事例の発表をしていただく。そして、先ほどもあったが、アドバイザーということで日本福祉大学の長畑先生に引き続きアドバイスしていただく予定にしている。申し込みは特にないが、またご案内を送らせていただきたいと思いますのでよろしくお願ひしたい。

村瀧室長

浜田市人権・同和教育講演会（資料10）

開催日は2月24日（土）午前10時から11時40分まで。場所は浜田公民館である。内容は「『部落差別解消推進法』が施行！～どんな法律？なぜできたの？～と題し、近畿大学人権問題研究所教授奥田均さんに講演いただく。

奥田先生は昨年度三隅町で開催された、人権教育夏期研修において、「道祖本事件から30年。差別の現実から深く学ぶ」と題して講演され、差別の事件に直接関わってこられた経験に基づく話をしていただいている。一昨年12月に施行された法施行初年度の今年ということで、先生は大変お忙しい中ではあったがこの2月24日に来浜いただくことが叶った。地元に関わりのある先生にお話いただけることを有難く思う。たくさんの

方にご来場いただき、共に学び人権感覚を育んでいきたいと考えている。

原田分室長

平成30年金城自治区新成人を祝う会の開催について(報告)(資料11)

1月3日(水)午前10時から平成30年の金城自治区新成人を祝う会を開催した。新成人36名の出席ということで、この成人式であるが地区まちづくり委員会、自治会、公民館、また、新成人や保護者も一緒になって実行委員会を立ち上げ、準備を進めてきた。当日の状況は約80人の地域の方々が参加され、新成人を祝福した。新成人の代表の方も「大人の仲間入りをするとすると至らないところが多いが、頑張っていきたい」ということで決意表明をされた。最後にまちづくり委員会の紹介など色々されて、帰る故郷がある大切さを知ってほしいということで、成人の方に声を掛けておられた。短時間ではあったが非常に有意義なものであった。浜田自治区の石中央文化ホールである成人式とは違い、厳かではあったが有意義な成人式であったと思う。

石本教育長

以上資料のあるところについてはご報告いただいた。資料がない課等で報告事項のある方は願います。

各課長

特になし。

石本教育長

今、課長方から資料3から11までの報告があった。これについて質問があればご指摘願う。

委員方

特になし。

4 その他

次回定例会日程

定例会 2月14日(水)13時30分から 北分庁舎2階会議室

次々回定例会日程

定例会 3月19日(月)13時30分から 北分庁舎2階会議室

15:45 終了